

令和元年度（2019年度）採択プログラム 中間評価調書
 卓越大学院プログラム プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

| | | | |
|--|---|---|------|
| 機関名 | 京都大学 | 整理番号 | 1910 |
| 1. | プログラム名称 | メディカルイノベーション大学院プログラム | |
| | 英語名称 | Graduate Program for Medical Innovation | |
| | ホームページ (URL) | https://www.mip.med.kyoto-u.ac.jp/ | |
| 2. 全体責任者 (学長) | <small>※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学（連合大学院によるものは基幹大学）の学長名に下線を引いてください。</small> <small>ふりがな</small> みなと ながひろ 氏名 (職名) 湊 長博 (京都大学総長) | | |
| 3. プログラム責任者 | <small>ふりがな</small> いわい かずひろ 氏名 (職名) 岩井 一宏 (京都大学・大学院医学研究科・研究科長) | | |
| 4. プログラムコーディネーター | <small>ふりがな</small> わたなべ だい 氏名 (職名) 渡邊 大 (京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授) | | |
| 5. 設定する領域 | 最も重視する領域【必須】 | ①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野 | |
| | 関連する領域 (1)【任意】 | ③将来の産業構造の中核となり、経済発展に寄与するような新産業の創出に資する領域 | |
| | 関連する領域 (2)【任意】 | なし | |
| | 関連する領域 (3)【任意】 | なし | |
| 6. 主要区分 | 最も関連の深い区分 (大区分) | H | |
| | 最も関連の深い区分 (中区分) | | |
| | 最も関連の深い区分 (小区分) | | |
| | 次に関連の深い区分 (大区分)【任意】 | I | |
| | 次に関連の深い区分 (中区分)【任意】 | | |
| | 次に関連の深い区分 (小区分)【任意】 | | |
| 7. 授与する博士学位分野・名称 | 博士 (医学) ・ 博士 (医科学) ・ 博士 (社会健康医学) ・ 博士 (人間健康科学) ・ 博士 (薬科学) ・ 博士 (薬学) 付記する名称：メディカルイノベーション大学院プログラム | | |
| 8. 学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。) | 京都大学大学院 医学研究科 医学専攻、医科学専攻、社会健康医学系専攻、人間健康科学系専攻、 薬学研究科 薬科学専攻、薬学専攻、医薬創成情報科学専攻 | | |
| 9. 連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 <small>※ 該当する場合には○を記入</small> | | 10. 本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 <small>※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。</small> | |
| 連合大学院 | | 共同教育課程 | 18名 |
| 11. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名) | | | |
| カリフォルニア大学サンディエゴ校 (アメリカ)、トロント大学 (カナダ)、国立台湾大学 (台湾)、分子腫瘍学財団研究所 (イタリア)、National Institutes of Health (アメリカ)、Max-Planck研究所 (ドイツ)、NeuroSpin (フランス)、国立研究開発法人理化学研究所、神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター、公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院、公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、株式会社ミクシィスマートヘルス事業部、株式会社KBBM、株式会社MICIN、エーザイ株式会社、第一三共株式会社、中外製薬株式会社、旭化成ファーマ株式会社、大正製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、小野薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、杏林製薬株式会社、Chordia Therapeutics株式会社 | | | |

(【1910】 機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム)

[公表]

| 14. プログラム担当者一覧 | | | | | | | | |
|----------------|-------------------------|----------------|----|--|--------|-----------------------------------|--------------------|----------|
| ※「年齢」は公表しません。 | | | | | | | | |
| 番号 | 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポイント(割合) |
| 1 | (プログラム責任者) 岩井 一宏 | イワイ カズヒロ | | 京都大学・大学院医学研究科・研究科長 | 博士(医学) | 生化学・細胞生物学・分子生理学 | プログラムの統括 | 0.5 |
| 2 | (プログラムコーディネーター) 渡邊 大 | ワタナベ タイ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 神経科学 | プログラムの管理運営、コーディネート | 1 |
| 3 | 萩原 正敏 | ハギハラ マサトシ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 分子生物学、ケミカルバイオロジー、薬理学、解剖学 | 産官学連携教育担当 | 0.2 |
| 4 | 渡邊 直樹 | ワタナベ ナキ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 薬理学・細胞生物学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 5 | 小川 誠司 | オガワ セイジ | | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授 | 博士(医学) | 分子遺伝学・分子腫瘍学・血液内科学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 6 | 松田 道行 | マツダ ミチユキ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 実験病理学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 7 | 中川 一路 | ナカガワ イチロ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(歯学) | 細菌学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 8 | 岩田 想 | イワタ ヲウ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(農学) | X線結晶学、膜蛋白質構造生物学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 9 | 竹内 理 | タケウチ リ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 免疫学・生化学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 10 | 篠原 隆司 | シノハラ タカシ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 生殖生物学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 11 | 伊佐 正 | イサ タカシ | | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授 | 博士(医学) | 神経生理学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 12 | 林 康紀 | ハヤシ ヤスノリ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 神経科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 13 | 浅野 雅秀 | アサノ マサヒデ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(理学) | 実験動物学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 14 | YOUSSEFIAN, Shohabeddin | ユセフィアン ショハバディン | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | Ph. D | Molecular Basis of Human Diseases | 国際連携教育担当 | 1 |
| 15 | 成宮 周 | ナルミヤ シュウ | | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特任教授 | 博士(医学) | 薬理学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 18 | 早乙女 周子 | サオメ チカコ | | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特任教授 | 博士(薬学) | 知的財産マネジメント | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 20 | 高折 晃史 | タカオリ アキラ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 血液学・腫瘍学・ウイルス学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 21 | 妹尾 浩 | セノオ ヒロシ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 消化器内科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 22 | 平井 豊博 | ヒライ トヨヒロ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 呼吸器病学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 23 | 稲垣 暢也 | イナガキ ノブヤ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 内科学、糖尿病学、内分泌学、病態栄養学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 24 | 柳田 素子 | ヤナギタ モトコ | | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授 | 博士(医学) | 腎臓内科学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 25 | 武藤 学 | ムトウ マナブ | | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 腫瘍内科 | 産官学連携教育担当 | 1 |

(【1910】機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧(続き)

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポイント(割合) |
|----|-------|------------|------------------------------|-----------------|------------------------|-----------|----------|
| 26 | 梶島 健治 | カバシマ ケンジ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 免疫アレルギー | 教育研究推進担当 | 1 |
| 27 | 滝田 順子 | タキタ ジュンコ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 小児科学、血液腫瘍学、分子生物学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 28 | 溝脇 尚志 | ミゾワキ ナシ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 放射線腫瘍学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 30 | 伊達 洋至 | イダテ ヒロシ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 呼吸器外科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 31 | 松田 秀一 | マツダ シュウイチ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 整形外科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 32 | 高橋 良輔 | タカハシ リョウスケ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 脳神経内科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 33 | 宮本 享 | ミヤモト スム | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 脳神経外科学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 34 | 村井 俊哉 | ムライ トシヤ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 精神医学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 35 | 黒田 知宏 | クロダ トモヒロ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(工学) | 医療情報学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 36 | 加藤 源太 | カトウ ゲンタ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・准教授 | 博士(文学) | 病院・医療管理学・医療情報学・医療社会学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 37 | 森田 智視 | モリタ チシ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・教授 | 博士(保健学) | 医学統計学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 38 | 今中 雄一 | イマナカ ユウイチ | 京都大学・大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・教授 | 医学博士・Ph. D.・MPH | 医療経済・経営・政策 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 39 | 中山 健夫 | ナカヤマ ケンオ | 京都大学・大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・教授 | 博士(医学) | 公衆衛生学、疫学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 40 | 古川 壽亮 | フルカワ トシアキ | 京都大学・大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・教授 | 博士(医学) | 臨床疫学、精神医学、認知行動療法 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 41 | 奥野 恭史 | オクノ ヤスシ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(薬学) | 創薬計算科学・データサイエンス | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 42 | 高桑 徹也 | タカカワ テツヤ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 病理学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 43 | 足立 壯一 | アダチ ソウイチ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 血液腫瘍・感染症 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 47 | 杉本 直三 | スギモト ナオツウ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(工学) | 医用画像情報学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 48 | 山田 重人 | ヤマダ シゲヒト | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 解剖学・発生学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 49 | 市橋 則明 | イチハシ ノリアキ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 理学療法学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 50 | 青山 朋樹 | アオヤマ トモキ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 再生医学、リハビリテーション医学、整形外科学 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 52 | 澤本 伸克 | サワモト ノブカツ | 京都大学・大学院医学研究科・人間健康科学系専攻・教授 | 博士(医学) | 病態神経科学関連・神経内科学関連 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 53 | 中山 和久 | ナカヤマ カズヒサ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授 | 博士(医学) | 分子細胞生物学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 54 | 高須 清誠 | タカス キヨセイ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授 | 博士(薬学) | 合成化学・生物有機化学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 55 | 竹本 佳司 | タケモト ヨシジ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授 | 博士(薬学) | 有機合成化学 | 教育研究推進担当 | 1 |

(【1910】機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム)

[公表]

| 14. プログラム担当者一覧(続き) | | | | | | | |
|--------------------|----------------|--------------|--|----------------|-------------------------------------|-----------|---------|
| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポート(割合) |
| 56 | 松崎 勝巳 | マツザキ カツミ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授 | 博士(薬学) | 生物物理化学 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 57 | 加藤 博章 | カトウ ヒロアキ | 京都大学・大学院薬学研究科・研究科長 | 農学博士 | 構造生物学・構造薬理学 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 58 | 石濱 泰 | イシハマ ヤスシ | 京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授 | 博士(薬学) | プロテオミクス・質量分析 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 59 | 竹島 浩 | タケシマ ヒロシ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬科学専攻・教授 | 医学博士 | 生化学 | 教育研究推進担当 | 2 |
| 60 | 金子 周司 | カネコ シュウジ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬学専攻・教授 | 薬学博士 | 薬理学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 61 | 小野 正博 | オノ マサヒロ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬学専攻・教授 | 博士(薬学) | 放射性薬品化学・分子イメージング | 教育研究推進担当 | 1 |
| 62 | 高倉 喜信 | タカクラ ヨシノブ | 京都大学・大学院薬学研究科・薬学専攻・教授 | 薬学博士 | 薬剤学・ドラッグデリバリーシステム | 教育研究推進担当 | 1 |
| 63 | 大野 浩章 | オノ ヒロアキ | 京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授 | 博士(薬学) | 有機化学・医薬品化学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 64 | 土居 雅夫 | ドイ マサオ | 京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授 | 理学博士 | 生理学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 65 | 掛谷 秀昭 | カケヤ ヒデアキ | 京都大学・大学院薬学研究科・創発医薬科学専攻・教授 | 博士(工学) | ケミカルバイオロジー・天然物化学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 66 | 山下 富義 | ヤマシタ フミヨシ | 京都大学・大学院薬学研究科・統合薬学教育開発センター・教授 | 博士(薬学) | 薬物動態学・ドラッグデリバリー | 教育研究推進担当 | 1 |
| 67 | 山中 伸弥 | ヤマナカ シンヤ | 京都大学・iPS細胞研究所・所長 | 医学博士 | 幹細胞生物学 | 教育研究推進担当 | 0.1 |
| 68 | 齊藤 博英 | サイトウ ヒロヒデアキ | 京都大学・iPS細胞研究所・教授 | 工学博士 | 生命工学 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 70 | 井上 治久 | イノウエ ハルヒサ | 京都大学・iPS細胞研究所・教授 | 博士(医学) | 幹細胞医学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 71 | 高橋 淳 | タカハシ ジュン | 京都大学・iPS細胞研究所・教授 | 博士(医学) | 神経再生 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 72 | 江藤 浩之 | エトウ コウジ | 京都大学・iPS細胞研究所・教授 | 博士(医学) | 再生医学・血液学 | 教育研究推進担当 | 1 |
| 73 | 川口 義弥 | カワグチ ヨシヤ | 京都大学・iPS細胞研究所・教授 | 博士(医学) | 発生生物学 | 教育研究推進担当 | 0.5 |
| 74 | 斎藤 通紀 | サイトウ ミチノリ | 京都大学・高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点/大学院医学研究科・医学専攻・医科学専攻・教授 | 博士(医学) | 細胞生物学・発生生物学 | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 75 | 上野 英樹 | ウエノ ヒデアキ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻・医科学専攻・教授/高等研究院・ヒト生物学高等研究拠点・教授 | 博士(医学) | 免疫学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 76 | 河野 優子 | コノ ユウコ | カリフォルニア大学サンディエゴ校・消化器内科臨床教授・放射線科臨床教授 | 博士(医学) | 肝臓移植内科 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 77 | Charles Boone | チャールズ ブーン | University of Toronto・Donnelly Centre for Cellular and Biomolecular Research・Professor | PhD in Biology | Chemical Genomics | 国際連携教育担当 | 1 |
| 78 | Hsueh-Fen Juan | シュエ フェン ジュアン | National Taiwan University・Department of Life Science・Professor | Ph. D | Systems Biology | 国際連携教育担当 | 1 |
| 79 | Stefano Casola | ステファノ カッソーラ | The FIRCO Institute of Molecular Oncology (IFOM)・Genetics of B cells and Lymphoma program・Senior Group Leader | Ph. D | Immunology, Cancer Biology | 国際連携教育担当 | 1 |
| 80 | 向山 洋介 | ムコウヤマ ヨウスケ | National Institutes of Health (USA), National Heart, Lung, and Blood Institute・Cell and Developmental Biology Center・Senior Investigator (tenured) | 理学博士 | 発生生物学(神経・血管・免疫発生学) | 国際連携教育担当 | 1 |
| 81 | 伊藤 博 | イトウ ヒロシ | マックスプランク脳科学研究所・リサーチグループリーダー | MD PhD | システム脳科学 | 国際連携教育担当 | 1 |
| 82 | Denis Le Bihan | デニス ルビアン | NeuroSpin and Research Director Atomic Energy Commission (CEA)・Founding Director | MD PhD | Development of non-invasive Imaging | 国際連携教育担当 | 0.5 |
| 84 | 渡辺 恭良 | ワタナベ ヤスヨシ | 国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センター・チームリーダー | 博士(医学) | 健康・病態科学、神経科学、分子・機能イメージング | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 85 | 鍋島 陽一 | ナベシマ ヨウイチ | 神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター・センター長 | 医学博士 | 分子生物学・分子病態学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |

(【1910】機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム)

[公表]

14. プログラム担当者一覧(続き)

| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポート(割合) |
|-----|--------|-------------|---|----------------------|-----------------------------|-----------|---------|
| 86 | 武藤 誠 | タケトウ マコト | 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院・所長 | 博士(医学) | 腫瘍学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 87 | 中西 重忠 | ナカニシ シゲタダ | 公益財団法人サントリー生命科学財団生物有機科学研究所・所長 | 博士(医学) | 生命科学・脳科学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 88 | 土橋 昌 | トブリシ マサル | 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・技術革新統括本部 | 修士(情報) | システム開発・オープンソースソフトウェア・分散処理基盤 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 90 | 橋口 昂矢 | ハシグチ タカヤ | 株式会社ミクシィ スマートヘルス事業部 | 高度専門士(工業専門課程)、工学(修士) | 自然言語処理、画像処理、情報検索、機械学習 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 92 | 桐山 瑤子 | キリヤマ ヨコ | 株式会社MICIN・レギュラトリアフェアーズ | 学士(医学) | 社会医学・薬事(医療機器) | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 94 | 高石 巨澄 | タカシ キヨシミ | 第一三共株式会社・研究統括部・スペシャルティ第一研究所第一グループ・グループ長 | 理学博士 | 希少疾患治療薬の創薬薬理 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 96 | 曾根 俊彦 | ソネ トシヒコ | 旭化成ファーマ株式会社・医薬研究センター合成化学研究部・創薬化学ユニット・ユニットリーダー | 薬学博士 | 創薬化学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 97 | 矢野 孝彦 | ヤノ タカヒコ | 大正製薬株式会社・医薬渉外部・グループマネージャー | 農学博士 | 神経科学、代謝の分子薬理～行動薬理 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 99 | 巾下 広 | ハバシタ ヒロム | 小野薬品工業株式会社・執行役員・研究副本部長 | 薬学博士 | 創薬研究全般 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 101 | 萩原 幸一郎 | ハギハラ コウイチロウ | 杏林製薬株式会社・創薬本部・取締役・副本部長 | 医学博士 | 研究開発管理・臨床開発 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 102 | 森下 大輔 | モリシタ ダイスケ | Chordia Therapeutics株式会社・Senior Director | 博士(薬学) | 創薬科学、薬理学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 103 | 大槻 元 | オオツキ ゲン | 京都大学・大学院医学研究科医学専攻、医科学専攻・特定教授 | 博士(理学) | 精神疾患の神経科学、創薬医学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 104 | 中島 貴子 | ナカジマ タカコ | 京都大学・医学部附属病院 次世代医療・iPS細胞治療研究センター・教授 | 博士(医学) | 早期開発・腫瘍内科 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 105 | 八木 宏樹 | ヤギ ヒロキ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・特定助教 | 学士(医学) | 神経科学 | 教育研究推進担当 | 9 |
| 106 | 通山 潔 | トヤマ キヨシ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・特定助教 | 学士(医学) | 細胞生物学 | 教育研究推進担当 | 9 |
| 107 | 安田 圭子 | ヤスタ ケイコ | 京都大学・大学院医学研究科・医学専攻、医科学専攻・特定助教 | 博士(医学) | 腎臓内科 | 教育研究推進担当 | 10 |
| 108 | 鈴木 忍 | スズキ シノブ | 京都大学・大学院医学研究科・「医学領域」産学連携推進機構・特定教授 | 薬学博士 | 産学連携マネジメント | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 109 | 井貫 恵利子 | イヌキ エリコ | 京都大学・大学院医学研究科・「医学領域」産学連携推進機構・特定助教 | 博士(薬学) | 有機化学 | 産官学連携教育担当 | 10 |
| 110 | 野口 美甫 | ノグチ ミホ | デロイトトーマツコンサルティング合同会社・ライフサイエンス&ヘルスケアマネージャー | 学士(運動生理学) | 運動生理学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 111 | 青井 遥 | アオイ ハルカ | デロイトトーマツコンサルティング合同会社・ライフサイエンス&ヘルスケアマネージャー | 修士(情報科学) | 情報科学 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 112 | 木村 禎治 | キムラ テイジ | エーザイ株式会社・執行役 チーフディスカバリーオフィサー | 博士(薬学) | 神経変性疾患創薬 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 113 | 志水 勇夫 | シミズ イサオ | 大日本住友製薬株式会社・執行役員・リサーチディレクター | 薬学博士 | 創薬薬理研究(ニューロサイエンス) | 産官学連携教育担当 | 0.5 |
| 114 | 陣上 久人 | ジンガミ ヒサト | 京都大学・医学研究科・特定教授 | 博士(医学) | 大学院生教育、生化学 | 教育研究推進担当 | 2.5 |
| 115 | 縄野 雅夫 | ナワノ マサオ | 田辺三菱製薬株式会社・創薬本部長 | 農学博士・経営学修士 | 医薬品の研究開発 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |

(【1910】機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム)

[公表]

| 14. プログラム担当者一覧（続き） | | | | | | | | |
|--------------------|-------|-----------|--------------------|--------------------------|--------|---------|--------------|-----|
| 氏名 | フリガナ | 年齢 | 機関名・所属(研究科・専攻等)・職名 | 学位 | 現在の専門 | 役割分担 | ポイント (割合) | |
| 116 | 田中 正人 | タナカ マサト | | 株式会社KBBM・代表取締役社長 | 学士（法学） | 研究開発・経営 | 産官学連携教育担当 | 1 |
| 117 | 松岡 宏治 | マツオカ ヒロハル | | 中外製薬株式会社・課長（創薬化学研究部・研究員） | 博士（工学） | 創薬化学 | 産官学連携教育担当 | 0.5 |

（【1910】機関名：京都大学 プログラム名称：メディカルイノベーション大学院プログラム）

進捗状況の概要【2ページ以内】

進捗状況の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

① 特筆すべき成果のあった事項

- (1) 京都大学では第4期中期目標・中期計画に基づき、総長の強いリーダーシップの下に大学院改革を推進する全学組織として、2021年10月に**大学院教育支援機構**を発足させた。大学院教育支援機構は、大学院共通教育部門、国際連携キャリア形成支援部門、大学院横断教育プログラム推進部門の3部門から構成される。卓越大学院については、**大学院横断教育プログラム推進部門**が全学の学位付記型プログラムを統括運営する組織として、教育の評価及び質保証、運営に関する企画、関係する博士課程との調整を担当する。同機構の発足により、**本プログラムを含む卓越大学院プログラムが推進する大学院改革と博士学生支援を含む他の大学院改革が有機的に連携可能**となり、また本プログラムの先進的な取り組みの全学への波及も期待できる。
- (2) 本プログラムで**複数メンター制度(分野指導教員と分野外の若手教員)**、**多段階QE評価**を導入した結果、本プログラムと整合性の高い医科学専攻における修士論文審査会、医学専攻博士課程/医科学専攻博士後期課程における中間審査が整備された。
- (3) 本プログラムにより所属研究科・専攻を横断するカリキュラムとして大学院教育コースを整備した結果、人間健康科学系専攻では、本プログラムが強化ポイントとして掲げる「情報テクノロジーの高度な活用」「マルチモーダル医薬の研究開発」の観点から「**メディカルAI**」「**リハビリテーション医学**」「**ケアリング科学**」コースを新設した。一方、薬学研究科では「**創薬基盤科学**」コースを新設し、本プログラムと整合性の高い5年一貫博士課程の新専攻整備を進めている。本プログラムの波及効果と言える。
- (4) 京都大学附属病院の次世代医療・iPS細胞治療研究センター等を統括する**先端医療研究開発機構(iACT)**担当者らが中心となって、キャリアパス支援・社会実装スキルアップ科目として「**橋渡し研究・臨床研究マネジメントコース**」を開講した。プロジェクトリーダーとして、橋渡し研究・臨床研究に必要な多様なマネジメント能力育成を目的としており、iACTが大学における医療開発支援で培ったノウハウを生かしてOJT(On-the job training)を実施するなど実践的な内容となっている。
- (5) コロナ禍の講義手法として、**本学情報環境機構の学習支援システム(PandA)**とZoomを活用してオンライン/ハイブリッド型の講義システムを整備した。またコロナ禍の医薬系研究交流サロン開催手法として、本プログラム監修の下、株式会社AGRI SMILE社が**オンライン学会システムの開発**を行った。本システムは、日本免疫学会等の学会運営にも利用されるなど、実用性の高いものとなっている。
- (6) 2020年度にはコロナ禍でアルバイトなどに制約を受ける履修生の経済的支援として、RAだけでなくTAの導入や研究資料の購入支援を実施した。この対応は**履修生向けアンケート**に基づく支援である。
- (7) セミナーを視聴するといった受け身の企画だけでなく、履修生が主体となる企画として、**MIP(オンライン)セミナー**を開講した。国内外で活躍する先輩研究者を講師として招き、最先端の研究に加えてキャリア形成について学ぶセミナーである。履修生自らホストとして、セミナー開催の事前打ち合わせ、座長としての進行を担当する。また学部生にも積極的に参加を呼びかけることで、学部-大学院一体化したキャリアパス支援としても機能している。MIPセミナーを契機に講師の研究者と共同研究を始める履修生もいる。たいへん好評でシリーズ化し、今後も開催する予定である。
- (8) 海外の連携機関であるカリフォルニア大学サンディエゴ校とは**UCSD/CNTセミナー**として両校の研究者が交代で講演を定期開催し、履修生を含む多くの学生、研究者に最先端の研究について学ぶ機会を提供した。同様に本プログラムと連携している**WPI 拠点 ASHBi**とも**JANUBET Primate Neurobiology School**を後援し、オンラインで開催した。
- (9) 2021年度からは理化学研究所 脳神経科学研究センターの開講する「**脳科学塾**」を科目として導入した。コロナ前このコースは埼玉県和光市の同センターにて受講する必要があり京都からの参加は難しかったが、コロナを契機にオンライン化した。理化学研究所は本プログラムの連携の先であることから、参加の呼びかけを得た。理研CBSの約30名の講師陣が異なるテーマで講義し、受講生は自らの発表も含め厳しい基準で評価されている。複数名の履修生が願書を提出し、選抜を通過した数名が現在修了に向け受講している。

② 計画通り進んでいる事項

概ね当初の計画通りに進捗している。2019年度採択後にプログラムの運営体制を確立し、医学・薬

学研究科との調整の上、カリキュラムを策定した。2020年度より履修生の受入れを開始し、本プログラムによる人材教育と大学院改革を推進している。

- (1) 本プログラム採択後より、全学組織として学位付記型プログラム(卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラム)の学位の質保証及び運営を統括する大学院横断プログラム推進センターの下で開催される大学院横断プログラム運営委員会を通じて、他のプログラムと履修生の状況及び全学組織としての大学院教育改革について情報共有を行なっている。なお2021年10月に大学院教育支援機構の設置に伴い、大学院横断プログラム運営委員会は支援機構下により開催されている。
- (2) 本プログラム教授会、運営委員会、各種委員会を設置した。各会議の構成員には参画研究科、専攻の教員が関わり、研究科・専攻を横断した一体的運営と研究科との緊密な連絡を実現している。また本プログラム推進を支援する事務室を開設した。
- (3) 部局を横断して大学院カリキュラムの調整を実施するカリキュラムワーキンググループと連携し、本プログラムのコースワークとして「コア履修科目群(コア医学教育コース及び大学院教育コース)」「キャリアパス支援・社会実装スキルアップ科目群」を整備した。
- (4) 本プログラムのウェブサイトを開設し、各専攻の大学院説明会では資料配布及びプログラムの概要及び履修生募集について説明を行っている。
- (5) 本プログラムの3ポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)を制定した。プログラムのウェブサイトにより公開し、履修希望及びプログラム修了に求められる基準を明示している。3ポリシーに基づき入学審査、QE評価、修了審査等の評価にかかる基準を定め厳正に運用している。
- (6) 学位の質の保証を目的として、多段階QEおよび副教官(メンター)制度を導入し、メンターによる評価を通じて、履修生の研究進捗確認を行っている。QE評価およびメンターによる指導の基盤となるプログラム独自のオンライン・ポートフォリオシステムの立ち上げを行った。
- (7) 履修生の経済的支援として、研究計画提案・申請に基づくRA制度を整備した。また履修生の研究支援として、異分野共同研究立案制度を整備した。
- (8) 優秀な学生の獲得に努め、2020年度～2021年度の履修生募集に関して、定員充足(20名/年)を達成している。

③ 改善が必要な事項

概ね当初計画に基づき実施し、本プログラムによる人材育成と大学院改革は想定以上の成果を上げつつある。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部の計画は延期としている。

- (1) 連携機関との交流：本プログラムの学外担当者・講師の所属は、医療機関や製薬/食品関係企業である。一部の担当者は、組織としてのコロナ禍における対応として厳しく活動制限を行っており、対面による講義担当が困難となっている。またテレワーク等で入社制限している場合も多く、履修生との交流が困難となっている。
- (2) インターンシップ：同様にオンサイトでのインターンシップ実施も困難である。本プログラムには附属病院内や病院キャンパス内で活動している履修生は、病院の指針に従う必要があり、外部でのインターンシップ実施は不可能であった。ただし、インターンシップは本プログラムの修了要件において選択必修の扱いで、履修生はインターンシップ、異分野共同研究立案のいずれかを選択できることから、流動的な状況を鑑み異分野共同研究を進めている。
- (3) 令和近衛塾：有料の会員制エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラムであり、企業リーダーへの本プログラムの人材育成の意義について理解を深めて、プログラムへの支援強化も目的としている。オンラインでは真価が発揮されないことから、開催を延期としている。

上記の問題点へ対応する計画は立案済みで、コロナ感染症のリスク回避等の状況により、適宜実施予定である。

④ プログラムとしての今後の見通し

プログラムとしての目標は凡そ達成しつつある。

本プログラムの取組が研究科内に浸透しつつある現状、制度的には確立しつつあるため補助期間終了後も教育内容を維持することは可能である。

博士学生の学修支援についても大学院教育支援機構の下で、経済的支援がスタートしており、多くの履修生がその恩恵を受けている。今後は全学および部局の経済的支援制度をどのようにプログラムと連携させるかを検討する必要がある。